Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Interatrial Conduction Time Can Predict New-Onset Atrial Fibrillation After Radiofrequency Ablation of Isolated, Typical Atrial Flutter

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 逸見, 隆太 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032082

主 論 文 の 要 旨

Interatrial Conduction Time Can Predict New-Onset Atrial Fibrillation After Radiofrequency Ablation of Isolated, Typical Atrial Flutter.
(心房内伝導時間は心房粗動アブレーション後の新規心房細動発症を予測しうる)

東京女子医科大学循環器内科学教室
（指導：萩原誠久教授）
逸見　隆太

J Cardiovasc Electrophysiol, Vol. 27, pp. 1293-97, November 2016

【要　旨】背景：通常型心房粗動のアブレーション治療後に、心房細動の新規発症が少なからず発生する。本研究の目的は、心房細動歴のない通常型心房粗動(孤立性心房粗動)に対するアブレーション後における心房細動の新規発症と心房内伝導時間との関連性を検討することである。方法：２００４年から２０１２年の期間に、孤立性心房粗動に対するアブレーションに成功した連続８０症例を検討した。心房内伝導時間の定義は、１２誘導心電図におけるＰ波の始まり（起始部）から冠静脈洞内電極カテーテルで記録される最遅延電位までの時間とし、心房粗動アブレーション後の洞調律時に測定した。結果：心房粗動アブレーション後の平均観察期間は 4.1±2.5 年であり、心房細動の新規発症を２２名（２８％)に認めた。Cox 回帰分析を用いた多変量解析では、心房内伝導時間は心房粗動アブレーション後の心房細動新規発症の独立した予測因子であった（ハザード比 1.03; 95%CI 1.00-1.06; P = 0.02)。心房細動の新規発症を予測する心房内伝導時間の至適カットオフ値は、120ms であった(感度 48%, 特異度 90%)。カプランマイヤー曲線では、心房粗動アブレーション後の心房細動新規発症は心房内伝導時間が 120ms 以上の群は、120ms 未満の群よりも有意に発症が多かった(P=0.02)。結語：延長した心房内伝導時間は、孤立性心房粗動アブレーション後の心房細動新規発症を予測しうる。本結果は、心房粗動アブレーション後の抗凝固療法継続の判断に貢献する可能性がある。